

雑木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

柘榴酒の思い出

毎年秋になると思い出すことがある。

22年前の秋、私はイランのテヘランから南西400kmにあるアラクというところで、製油工場建設のため駐在中であった。ある休みの休日、街に遊びに出かけたおり赤ちゃんの頭ぐらいの真っ赤な柘榴が売られていた。日本では精々5cmぐらいだがイランのそれは大きかった。その時、これで酒を造ろうと考えた。イランは1979年のコメイニ革命以降アルコールは厳禁である。キャンプではこの時期は葡萄での密造酒造りが盛んであった。いろいろ聞きまわると酒作りに必要な材料と道具が判明した。まず材料は果汁と砂糖とイースト菌、道具は果物から果汁をとるための絞り器、それと発酵のための容器である。砂糖はキャンプの食堂から失敬した。イースト菌は小さな缶で街の商店で手にいれた。イランのパンはインドのナンに似たクレープ状でイースト発酵なしのものであるから、イースト菌があるということは一般の家で、アルコールの密造がされていることだ。絞り器もまた街で買った。発酵容器はミネラル水2Lボトルを用意した。

いよいよ、柘榴を木箱で買って来た。覚えてないが15個ぐらいはあった。イスラムの国だから仕事が終わっても飲みに行くところはないし、よって時間はいくらでもある。皮をむいて、果肉のついた種をとりだし、絞り器で果汁をとり貯める。そこに目分量で砂糖とイースト菌を混ぜ、寝かせる。

これから、約10日で酒ができる。でも、これからが大変である。キャンプの部屋の掃除とベッドメイキングはイラン人がやる。発酵中は匂う。密造はすぐわかるので、彼らが当局にご注進しないような手だてが必要となる。買収をすることになる。あれやこれやで、10日たったらピンク色のざくろ酒ができた。試飲すると、すっぱみのあるアルコール度の低いうまい酒であった。

なにより透明なピンク色が美しかった。

部下のフィッリピーノたちをよんで、飲み会になった。彼らの評判も上々であった。あと1回密造して柘榴の季節はおわった。

昨年秋トルコに旅行した。同じ大きな真っ赤な柘榴が店先に並んでいた。なつかしかった。うんちくをひとつ。ザクロという名は、イランの東北にあるザクロス山脈に由来するようだ。イランからシルクロードを伝わって日本にもたらされ、柘榴という当て字がつけられたという。

おわり
吉田賢一



1. 2013年11月の主な活動報告

- ①10月23日(水) 6名 センター手伝い他
- ②10月26日(土) 6名 SF準備、材整理、ZFC通信印刷・発送
- ③10月27日(日) 4名 森のボランティア祭り対応
- ④10月30日(水) 9名 SF準備
- ⑤11月2日(土) 13名 アラカシ伐倒、製材他
- ⑥11月6日(水) 7名 炭材作り、チェーンソー整備、小屋片づけ
- ⑦11月9日(土) 16名 シラカシ伐倒、製材、伐倒材搬入
- ⑧11月13日(水) 11名 クヌギ林草刈、SF準備、ドラム缶窯修理
- ⑨11月16日(土) 16名 クヌギ林草刈、炭材作り、運営会
桜林検討会参加

2. 運営会報告

- ①23日の草刈体験イベントの責任者は藤原さんとする。
- ②12月21日(土)に恒例の忘年会を森の家で行う。
会費は泊まりの人7,300円、泊まらない人は2,300円とする。
申し込みは今月中とし多数の方のご参加をお願いします。
- ③懸案の「森のめぐみコーナー」の設置を27日(水)に行う。
- ④ZFC通信の巻頭言の12月以降の担当は次の通りとする。
12月 吉田さん、1月 大越(節)さん、2月 張間さん、3月 関根さん、4月 片岡さん
- ⑤来年度の役員改選(新任2名他)を2月までに行うこととし、指名された人は快くお引き受け
くださるよう代表から要請があった。

3. 12月の活動予定

- ①12月4日(水) 竹林整備、SF準備
- ②12月7日(土) ホダ木用クヌギ伐倒、製材、SF準備
- ③12月11日(水) クヌギ林草刈、SF準備
- ④12月14日(土) シラカシ伐倒、クヌギ林草刈、製材
- ⑤12月18日(水) シラカシ整備(粗朶柵作成等)
- ⑥12月21日(土) 管理地草刈、運営会、注連縄作り、忘年会
- ⑦12月25日(水) 炭小屋周辺清掃等、SF準備

以上